

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 「第40回理事会」開催報告
- 3 令和5年度「港湾工事積算基準講習会」の実施報告
- 4 「第44回公共調達のあり方を考える講演会」の開催
- 5 令和6年度研究開発助成及び教育・研究環境改善のための助成事業の研究者の決定
- 6 SCOPE 現場訪問
夢洲地区 土地造成監理支援業務
- 7 SCOPEからのお知らせ

SCOPE NEWS

最近のSCOPEの動向

常務理事 水上 純一

入社式

この4月1日に新卒社員の入社式を執り行いました。新卒社員の採用は今年30周年を迎えるSCOPEにとって初めてのことです。第1期生として4名の新卒社員が入社しました。

入社式においては、理事長からのご挨拶があり港湾・空港を取り巻く社会状況、SCOPEの果たすべき役割などがわかりやすく述べられました(いつものようにきちんと要約できずアバウトに書くことしかできず申し訳ありません)。「明るく楽しい職場」「夢が全ての原動力だ。夢をもて」と大変元気になる言葉も頂きました。

初任者研修も初めて実施するものです。SCOPEはこれまで中堅以上の経験豊富な技術者を中途採用してきたので、新卒者に対する教育のノウハウを持っているとは胸を張れません。約2週間の初任者研修が終わって配属先に行ってからどのように育てていくかが今後の課題です。配属先は本部調査部に1名、同建マネに1名、沖縄支部に2名です。各部署において工夫しながら育成してほしいと思います。

今後どのような研修をしていけばよいかは、どのような技術者が必要なのかの問題であることは言うまでもありません。その目標に向けたキャリアパスを考えてじっくり育成していく必要があります。

ここからは研修に関する思い出話です。昭和から平成の始めころにかけて当時の運輸省港湾技術研究所では多くの技術研修コースがありました。筆者が所属していた土質部関係の研修では、土質基礎コースと上級土質コースと二段階の研修がありました。基礎コースは調

査設計事務所(調設)で初めて土質調査や設計を担当する職員を対象に基礎的な内容を、上級コースは経験を積んだ建設専門官(建専と呼んだ)を対象に少し高度な内容の研修を実施していました。基礎的な研修と言っても講義は「圧密」「せん断」・・・などの座学や、土質試験実習やボーリング実習など実践的な内容も含むものでした。受講する方も大変ですが、研修を企画・準備する方もそれ以上に大変な作業でした。

研修期間は両コースとも2週間でした。まだ完全週休二日になっていなかったもので土曜日も講義がありました。今では想像もできませんし、当時の経験者は現役ではもうほとんど残っていないかもしれません。また、港研の各研究部には研修委員がおかれ毎年研修を改善するようにしていました。もちろん研修は土質だけではなく、水工部や構造部が主催する研修コースもありました。当時は直営で基本設計を行っていたため専門的な知識を習得したインハウスの技術者を必要といたためこのような研修をしていたと思います。

その後ポートルネッサンスなどの新しい港湾整備の方向性が出されるのと同時期に「アウトソーシングの推進」が唱えられるようになりました。従来型のハード系のゴリゴリした技術者からソフト系の技術者の需要が増大したのです。研修はどうなったかという手始めとして完全週休二日制が定着すると期間を1週間に短縮しました。続いて更なる簡素化が図られて行きました。さらに平成13年の省庁再編以降は新しい形式の研修コースが作成され現在に至っています。

SCOPEが求める技術者はハード系が中心であることはもちろんなので、それに適した研修が必要なのですが当面はOJT中心で行くことになりそうです。また、現在でも国総研横須賀で実施される研修の中にSCOPEからでも参加可能なコースがいくつかあるので関連するコースに参加させて頂きたいと考えています。

来年以降の採用に向けて手始めに昨年の夏季にインターンシップを実施しました。SCOPE全部の支部と本部調査部の11か所で55人の参加者を得ました。ちなみに令和4年は5支部で開催し21名の参加でした。この参加者の中から採用者が出ています。インターンシップの開催目的は、「港湾、空港及び空港に関する技術と知識の普及・啓発の促進、並びに一般財団法人港湾空港総合技術センターの業務内容の理解促進」としています。SCOPEだけではなく港湾・空港の分野に興味を持ってもらうことも目的です。

SCOPEのホームページやマイナビなどにも募集情報が掲載されていますので一度覗いてみてください。

話が最初の方に戻りますが、「明るく楽しい職場」「夢が全ての原動力だ。夢をもて」という言葉は新規採用者だけでは我々にも向けられた言葉であります。皆さんは自分の夢が何だったか覚えていませんか。



「第40回理事会」開催報告

経営企画部 総務課長 塩谷 かおり

令和6年3月13日（水）15:00～「第40回理事会」（於：SCOPE会議室）を開催いたしました。

まず始めに山縣理事長から挨拶があり、その後来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官 西村様ご挨拶の後、事務局より、本理事会には理事10名、監事2名が出席していることの報告を行ない、定款に定める定足数を満たし本理事会が有効に成立したことが確認されました。

以下審議された事項等について報告いたします。いずれの案件も採決の結果、承認されました。

【審議事項】

第1号議案

「SCOPEビジョン2030 フォローアップ」について

「SCOPEビジョン2030 フォローアップ」の概要を山本研究主幹が説明いたしました。

令和元年に策定されたSCOPEビジョン2030のフォローアップについては、これまでの主な取組と、社会経済情勢の変化も踏まえて今後強化・充実すべき事項をとりまとめることとしました。

ビジョンの基本的な考え方は、SCOPEの持つ技術を継承し研鑽に努め、それを活かす方向として以下の3つの柱を掲げています。

- 1 社会に還元するための業務の継続・充実
- 2 新たな挑戦と既存技術の高付加価値化
- 3 組織や人材の基盤の整備

ビジョン策定後の大きな変化を踏まえて今後強化・充実すべき事項は以下の通りです。

- (1) 脱炭素化に向けた取組
- (2) データ等のデジタル化や情報関連技術を活用した共有・利用の仕組み作り
- (3) 長期的・計画的な視点を持った調査・研究等への取組
- (4) 港湾空港分野の技術者の確保・育成

第2号議案

「令和6年度事業計画書及び収支予算書に関する件」

1) 大野専務理事が「令和6年度事業計画書」についての説明を行いました。

令和6年度は、引き続き港湾・空港整備に関する発注、施工、維持管理等の分野での調査研究業務の強化・充実を図るとともに、脱炭素社会に向けた洋上風力発電やブルーカーボン等に関する調査研究、港湾・空港整備を担う人材確保等の課題に積極的に取り組むこととします。

○脱炭素化の取組強化

- ・洋上風力発電プロジェクトへの対応
- ・二酸化炭素排出量削減に関する調査研究（港湾・空港）



○DXへの対応強化 デジタル化とデータの共有利用の仕組み作り

- ・港湾並びに港湾施設に関する情報の電子化
- ・BIM/CIMの導入

○長期的・計画的な視点での調査・研究・活動

- ・大学や研究所等との共同研究
- ・研究開発助成制度の拡充
- ・港湾計画の策定支援（ふるさと納税企業版）

○技術者の確保・育成のさらなる強化

- ・インターンシップの充実
- ・技術者の育成 技術者の採用
- ・外国人技術者受入に関する調査・研究

○継続的に行う業務

- ・ゴム防舷材の試験環境証明事業
- ・大規模プロジェクトへの技術支援

2) 岡本業務執行理事が「令和6年度収支予算書」についての説明を行いました。

令和6年度収支予算の内訳は以下のとおりです。

経常収益額 11,955 百万円 経常費用額 11,912 百万円
税引前利益 20 百万円 税引後利益 13 百万円

この第2号議案については、原案に対して異議はなく、理事会として同意することが決定されました。

なお、令和6年度事業計画についての詳細はSCOPEホームページをご覧ください。

【報告事項】

・職務の執行状況

山縣理事長・大野専務理事・水上常務理事・松田業務執行理事・岡本業務執行理事・吉永業務執行理事より、令和5年度の各々の業務の執行状況について、理事・監事に報告いたしました。

・30周年記念事業について

大野専務理事より、SCOPE設立30周年記念事業についての報告がありました。

その他事項として、奥田審議役より「能登半島地震への対応について」説明がありました。

最後に、今回の理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ報告とさせていただきます。

以上

令和5年度「港湾工事積算基準講習会」の実施報告

..... 建設マネジメント研究所 主任研究員 三木 英

「港湾請負工事積算基準」(以下、「積算基準」)は、港湾及び海岸土木工事の予定価格の基礎となる積算価格を算出するため、国土交通省港湾局において策定されています。また、積算基準は、品質確保及び適正な利潤の確保、施工環境の変化を予定価格に適切に反映するため、施工実態や歩掛かり等の調査・分析等に基づき、適宜、改定が行われています。

この積算基準が適正に運用されるとともに積算に対する理解を深めていただくことで、港湾工事の工事費を適正に算定していただけるよう、SCOPEでは港湾管理者及び民間企業の積算業務担当者等を対象に港湾工事積算基準講習会を開催しています。

令和5年度は令和6年3月7日(木)から3月15日(金)の期間中、全国10会場(札幌・仙台・新潟・横浜・名古屋・神戸・広島・高松・福岡・沖縄)において講習会を開催しました。また、横浜及び札幌会場においてはオンライン聴講も可能な「ハイブリッド講習会」として実施しました。

講習会の概要について、以下のとおり報告します。

【講演プログラム】

- ・13:30～13:40 開会
- ・13:40～14:20 港湾整備事業の実施に向けた取組(国土交通省港湾局)
- ・14:20～14:50 各管内の動向(各地方整備局・北海道開発局・沖縄総合事務局)
- ・14:50～15:05 休憩
- ・15:05～15:55 港湾工事積算基準の改定概要(国土交通省港湾局・国土技術政策総合研究所)
- ・15:55～16:15 積算基準Q&A及びSCOPEの積算に関する取組(SCOPE)
- ・16:15～16:30 質疑応答

【講演概要】

・港湾整備事業の実施に向けた取組

国土交通省港湾局の講師の方から、令和6年度の港湾局関係予算の概要や、働き方改革、担い手の育成・確保、生産性の向上の3本柱を中心とした直轄事業の実施に向けた取組についてご講演をいただきました。

・各管内の動向

各地方整備局・北海道開発局・沖縄総合事務局の講師の方から、各管内の主な施策・令和6年度予算の概要・直轄プロジェクトのご紹介・ICT活用の取組・積算に対する取組等についてご講演をいただきました。

・港湾工事積算基準の改定概要

国土交通省港湾局及び国土技術政策総合研究所の講師の方から、令和6年度の積算基準の改定内容として、現



横浜会場



神戸会場

場環境改善費率と現場管理費率の改定・数値波動水槽(CADMAS-SURF)による検討調査に適用する歩掛の制定・単価表における燃料消費率や運転時間の変更・船舶供用係数(α)及び就業時間別船員供用係数(β)の改定等の詳細についてご講演をいただきました。

・積算基準Q&A及びSCOPEの積算に関する取組

SCOPEから、これまでに寄せられた積算基準に関する問い合わせ及び回答を取りまとめた「積算基準Q&A事例集」の説明を行うとともに、SCOPEより発行している積算に関する手引き等を紹介しました。

【開催日・開催場所・参加人数】

開催日	開催場所	参加人数
3月 7日(木)	横浜(対面)	30人
	横浜(WEB)	77人
3月11日(月)	神戸	48人
	広島	19人
3月12日(火)	福岡	69人
	沖縄	46人
3月13日(水)	新潟	14人
	高松	32人
3月14日(木)	札幌(対面)	13人
	札幌(WEB)	36人
	仙台	39人
3月15日(金)	名古屋	43人
合計		466人

「第44回公共調達のあり方を考える講演会」の開催

..... 建設マネジメント研究所 研究主幹 山本 貴弘

令和6年3月26日（火）、「公共調達のあり方を考える講演会」を開催しました。本講演会は、現在の公共調達について何が問題でどのように変革していくべきかを改めて考えるためにSCOPEが企画しているものであり、これまでに43回の講演会を行っております。今回は、国土交通省港湾局技術企画課 技術監理室長 宮田 正史 様に、「港湾の施設の技術上の基準の改訂動向及び港湾工事における新技術導入に向けた取組み」と題してご講演頂きました。



講師の宮田氏

「港湾の施設の技術上の基準」の改訂動向については、港湾における気候変動適応策の実装に向けた同基準の改正概要をご説明頂くとともに、設計供用期間中の作用変化を考慮した耐力設定の考え方、その前提となるシナリオ別平均海面水位上昇の予測値などについて、護岸を例としたイメージを交えながら分かりやすく解説して頂きました。

「港湾工事における新技術導入に向けた取組み」については、有用であるにも関わらず、まだ港湾事業等で活用されていない技術を積極的に活用するため枠組みである「港湾技術パイロット事業」の活用実績とともに、新たに選定された「袋詰根固材を活用した洗掘防止対策（高知港海岸津波防波堤（種崎側）」）をご紹介頂きました。

また、令和5年度の新たな取り組みとして、設計段階からの新技術の更なる導入に向けた環境整備のため、まさに本講演当日に策定・公表された“新技術カタログ”についてご説明頂きました。

最後に、能登半島地震への対応について、国総研、港空研の対応を中心にご報告がありました。

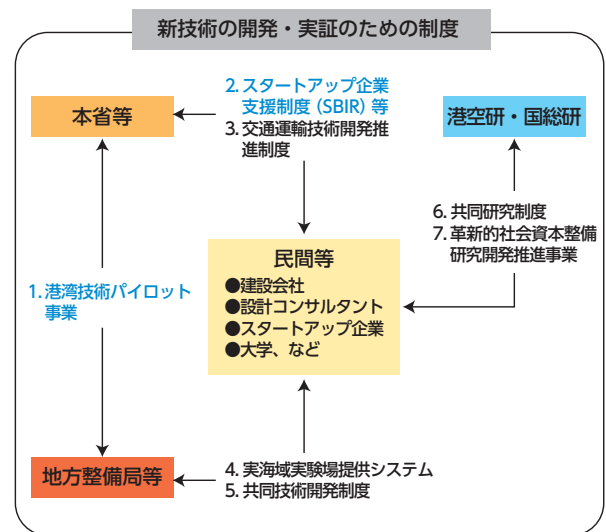
最新情報を含めた幅広い内容について具体例を交えな



会場の様子

がら体系的にご説明頂きまして、聴講者の皆様には新技術に対する港湾局の取組みについて理解を深めて頂くことができたのではないかと思います。

当日は、会場にて20名、Webを通じて110名の方にご参加頂くとともに、会場より多岐にわたるご質問・コメントを頂き、盛況のうちに講演会を終えることができました。来年度も本講演会の開催を予定しております。多数の方のご参加を心よりお待ちしております。



日 時： 令和6年3月26日（火）15:00～17:45

講 師： 国土交通省 港湾局技術企画課 技術監理室長 宮田 正史 氏
（国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部併任）

平成 6年4月 運輸省港湾技術研究所採用

平成24年7月 国土技術政策総合研究所港湾研究部港湾施設研究室長

令和 4年1月 港湾局 技術企画課 技術監理室長

講演内容： 技術基準の部分改訂動向及び港湾工事における新技術導入に向けた取り組み

1. 「港湾の施設の技術上の基準」の改訂動向

2. 新技術導入に向けた取組み

○ 「港湾技術パイロット事業」を活用した新技術の導入促進

○ 設計段階からの新技術の更なる導入に向けた環境整備の取組み（“新技術カタログ”の策定）

○ 港湾工事のICT施工の推進に向けた新技術導入の取組み 他

3. 能登半島地震対応関連

令和6年度研究開発助成及び教育・研究環境改善のための 助成事業の研究者の決定

..... 経営企画部 公益推進課長 入部 忠道

SCOPEでは、公益事業として「技術及びシステムの普及・啓発に関する事業」を行っており、今回は2月13日に令和6年度の審査委員会を行い、研究助成7件、

施設助成4件を決定いたしました。研究者及び研究テーマ・対象施設は以下の通りです。

●研究助成

研究者	所 属	研究テーマ	写真
日比野 忠史 准教授	広島大学大学院 先進理工系科学研究科	生成 AI 時代を見据えた海象学習モデルの構築	①
内山 雄介 教授	神戸大学大学院 工学研究科	瀬戸内海全域を対象とした流動環境予測技術の高精度化に関する研究	②
松田 達也 准教授	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科	防波堤の耐津波化に向けた後趾近傍のマウンド部分固化範囲の検討	③
福永 隆之 助教	九州大学大学院 工学研究院	火山堆積物を用いた海水練りコンクリートの港湾構造物への適応に関する基礎的研究	④
山城 賢 教授	九州大学大学院 アジア防災研究センター	係留式越波対策工の実現に向けた基礎的検討	⑤
竹林 幹雄 教授	神戸大学大学院 海事科学研究科	大規模火山災害に対応した港湾、空港のBCPに関する研究	⑥
小松 怜史 准教授	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院	接合部を有するPRC部材の水中での曲げ疲労破壊挙動の解明	⑦

●施設助成

申請者	所 属	対象施設	写真
居駒 知樹 教授	日本大学理工学部 海洋建築工学科	2次元造波水槽	⑧
千々和 伸浩 准教授	東京工業大学 環境・社会理工学院	鉄筋コンクリート試験体を切断するためのスラブソー	⑨
加藤 佳孝 教授	東京理科大学	促進中性化槽を改修した恒温恒湿槽	⑩
佐川 康貴 准教授	九州大学大学院 工学研究院	コンクリートミキサ	⑪



写真① 日比野准教授(右)



写真② 内山教授(左)



写真③ 松田准教授(左)



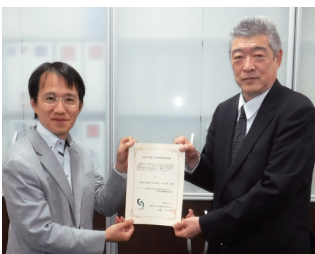
写真④ 福永助教(右)



写真⑤ 山城教授(右)



写真⑥ 竹林教授(左)



写真⑦ 小松准教授(左)



写真⑧ 居駒教授(右)



写真⑨ 千々和准教授(左)



写真⑩ 加藤教授(左)



写真⑪ 佐川准教授(右)



トラックスケール情報認識機器

RF-IDタグ

【お話を聞いた人】

一般財団法人 港湾空港総合技術センター
近畿支部 大阪咲洲支所

調査役 藤井 達司さん
主任テクニカル・エキスパート 阿部 義正さん
テクニカル・エキスパート 堀部 孝弘さん
テクニカル・エキスパート 久保 滋さん
テクニカル・エキスパート 坂口 剛さん

発生土の処理を効率化する自動化システムを採用

夢洲地区 土地造成監理支援業務

万博に向けて加速する 夢洲まちづくり関連工事

大阪市の西部に位置する大阪港は、西日本を代表する物流拠点として様々な物流関連施設も集積しており、埋立地には広大な開発用地を擁しています。1977年(昭和52年)に埋立事業に着手した夢洲は、市内で発生した建設土砂等を利用して作られた約390haの人工島で、各国の主要港と結ぶ国内屈指のコンテナターミナルを持ち、都心部や関西国際空港、神戸・京都などへの道路アクセスも充実しているエリアです。2017年(平成29年)には、観光拠点の形

成など新たな機能を盛り込んだ「夢洲まちづくり構想」が策定され、現在は2025年大阪・関西万博の開催に向けて、土地造成やインフラ整備、開発区域内整備などの夢洲まちづくり関連工事が本格化しています。

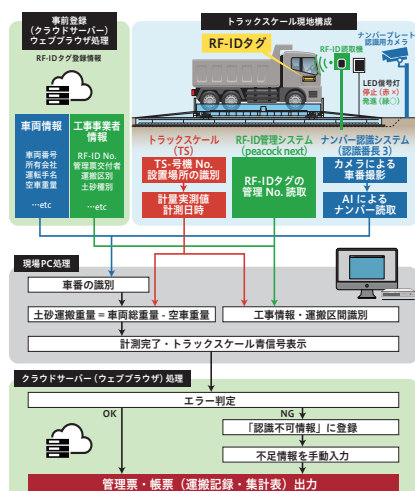
関連工事は土地造成と並行して同時期に複数の整備工事が進められます。土地造成においては、各事業主体との調整を行うとともに各関連工事で発生する建設発生土を土壌汚染対策法に基づき適正に計量し、管理する必要があります。複雑化した管理業務を効率的に遂行するために、今回の事業では土量計量と管理票を自動化したシステムを用いています。SCOPE近畿支部は令和4年4月より大阪咲洲支所を開設し、夢洲地区の土地造成監理支援業務に携わっています。今回は夢洲地区の現場を訪ね、現場の状況やシステムの内容について話を伺いました。

ダンプ1台につき約20秒で自動処理

「夢洲の埋立土砂は自然由来の汚染が確認されていて、法律に基づいて適切に処分するために管理票による区域外搬出が必要です。土を動かす時は、誰が採取し、誰が運んで、どこへ持って行くかを記録に残す必要があります。SCOPEの業務はこれらの管理を行うことです」(調査役 藤井さん)

この業務で採用されている「車両識別土量自動計量・帳票発行システム」は、関連する多数の事業者から毎日大量に発生する土砂の計量と管理票の作成を正確に行うためのシステムです。

「従来はダンプトラックの運転手が持っている紙の管理票を手渡しして整理していました。しかし、万博パビリオン建設工事やインフラ関係の施工業者は100社を超え、この方法では間に合わないので、SCOPEの業務として今回のシステムを開発しました。



夢洲土地造成監理システム
(トラックスケール土砂運搬計量・伝票発行システム)
システム構成図

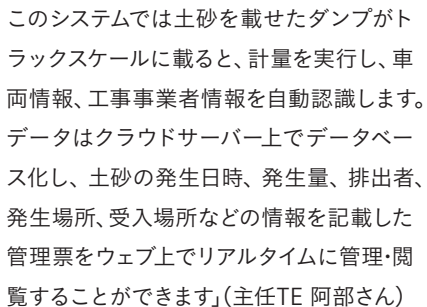


夢洲土地造成監理システム
(トラックスケール土砂運搬計量・伝票発行システム)



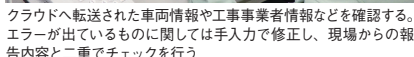
環境事業協会の職員の方々と連携して業務にあたる

業務内容：夢洲域内のインフラ工事（鉄道・道路・橋梁・電気・ガス・水道・下水等）、万博建設工事、夢洲複合観光施設建設工事等で発生する残土の一元的な管理



「その解決方法として非接触式のRF-IDタグを用いた管理システムを構築しました。RF-IDタグを装着したダンブがトラックスケール上に来ると、タグに登録された工事事業者情報や車両番号、カメラが認識したナンバー、土砂の重量などの情報を現場のPCが瞬時に処理し、管理票を発行します。」(TE 堀部さん)

「RF-IDタグは強力マグネットで取り外しが可能なので、午前と午後でダンプが入れ替わってもタグを付け替えれば計測が可能です。運用当初はシステムのエラーなどもありましたが、RF-IDタグ受信電波の強度調整やナンバー読み取りソフトウェアの改善で、認識率は晴天時99%以上に改善しました。ただ降雨時には読み取り認識率が低下する傾向があるので、雨よけ設備や電波強度の調整などに改善の余地があります。



「処分地に土砂を搬入する際には、SCOPEの委託として協力していただいている環境事業協会さんが土砂の中にガラ(産業廃棄物や建設廃材)が入っていないか、粘性土ではないかなどをチェックして搬入確認しています。また、3ヶ月に1回、汚染物質が漏れ出ていないか採水を行って公害監視をしています。土を測るシステムに加え、土砂の性状確認、監視など、SCOPEが総合的にコーディネートしながら土砂を動かす事業をコントロールし、環境面でも各課程で管理しています。(調査役 藤井さん)

「さらにSCOPE職員が、情報を表に整理する仕組みを作り、とてもわかりやすいものになりました。この業務の他に調整業務も行っており、土砂運搬予定数量表の提出が遅れている業者に電話やメールで催促したり、タグの入力方法がわからない業者の支援なども行っています」(TE 久保さん)

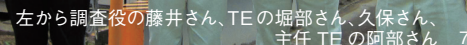
「一大プロジェクトの土地造成がシステムの不備によって遅れたということにならないよう、事前検討期間を1年早めにいただき、なんとか見通しをつけて開始することができました。目立たない部分ではありますが、土砂管理ができないと工事が全て止まってしまうのでとても重要な業務です。システムの使用開始から2年経ちますが一度も故障することなく、工事の進捗にご迷惑をおかけしていないことを誇りに思っています。(主任TE 阿部さん)

夢洲土地造成監理システムを活用し始めてからはや一年半になります。当初は会社情報の読み取りタグエラー、車両ナンバーの読み取りエラーなどがあり苦労することもありました。最近では万博工事関連事業者のシステム利用の指導や、システム使用業者の使用にあたっての設定の確認なども行います。今回の現場ではエクセル関数・マクロなどが非常に活用されていますから、これからの若い人たちにはITも必要になってくると思います。

昨年4月1日に大阪咲洲支所に着任しました。現場は来年4月の万博開催に向けて最盛期で多くの人が建設に携っています。万博で大屋根(リング)の施工など日本のものづくりの楽しさ、素晴らしさが次世代の技術者に伝わればいいと思います。業務としては現場での関連工事の残土を適切に処分するための監理支援業務ですが、SCOPEの一員として万博のプロジェクトに参加できたことを光栄に思います。

昨年4月より本業務を担当しています。当初は
取り扱い説明書もない計量用の専用システムや複
雑なエクセルの集計システムに戸惑いながらも、
自分なりの取り扱いメモが完成した時にはメモを
見ずに操作できるようになっていました。その後
は、手作業部分の入力ミスを確認できるチェッ
クのエクセルマクロなどを作りながら業務を進め
ています。専用システムに未完成部分があるため
思わぬエラーが発生することもあります。担当
する3名で相談しながらエラー対応を行っています。

Dr. Y. Kikuchi



People who create port and airport.

VOICE 受入担当協力会社の声

一般財団法人 環境事業協会

夢洲事務所 所長 林 正則さんにお話を伺いました。



夢洲域内での関連工事の土砂を適切に処分するために、計量での受入業務、港湾局の汚染土壌処理施設への搬入の管理を委託されています。SCOPEからは週間予定として、何の事業者が何台来るかを把握していただいているので、それを見ながら間違いがないようにチェックしています。受入業務では発生土砂を積んできたトラックを計測し、それが正確にモニターに表示されているかを確認。また目視で事業者ごとの台数をトラックにつけたゼッケンで判別し確認し、SCOPEに報告しています。モニターには重さと計量完了としか表示されないで、それが適正にちゃんと動いているかどうか、「○」「×」の表示がきちんと出ているかをチェックします。現場は電波状況がよくない時があるので、目視でカウントしたものを午前・午後でまとめてSCOPEに報告し、SCOPEはクラウドから転送されてきた事業者等の内容と報告されてきた事業者ごとの台数を突き合わせて二重チェックをします。これらの情報はそのまま

「管理票」のデータとなります。

以前、別の現場で建設発生残土を受け入れていた時には、役所が許可した分に番号が付き、その番号に基づいて必要な情報をシステムに入れていました。実際に搬入する時にトラックの登録番号が許可書と合っているか確認しますが、1つのトラックが複数の工事を請け負っていて許可書を何枚も持っている場合などがあり、間違いも発生していました。現在はPC上で、自動的にできるのでかなり楽になりました。また、従来は計測する車両を1台1台停めて登録していたためとても時間がかかり、渋滞が発生していましたが、このシステムではそのようなこともなく、とてもスムーズに行うことができます。

SCOPEとは連絡を密に取り合い、「タグが読み取れていないのか」「読取位置に来るようにトラックに指導してくれないか」など連携しながら、スムーズに間違いなく受入ができるようにしています。今後も万博関連の事業者パビリオンが増えていくので、PC上で監理できるのはとても便利だと思います。

取材・文：(株)ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

●海上工事施工管理技術者資格認定試験

	一次試験（択一式共通30問、専門20問）	二次試験（論文、面接）
申込期間	令和6年6月1日（土）～令和6年6月30日（日）	令和6年9月27日（金）～令和6年10月15日（火）
試験日	令和6年8月31日（土）	令和6年12月中旬
合格発表	令和6年9月27日（金）	令和7年1月31日（金）
受験料	11,000円	11,000円
試験会場	仙台、東京、大阪、福岡、那覇	東京、大阪、福岡
資格区分	I類（浚渫）、II類（コンクリート構造物）、III類（鋼構造物）	

●空港工事施工管理技術者資格認定試験

●空港土木施設点検評価技士資格認定試験

資格区分	空港工事施工管理技術者	空港土木施設点検評価技士
申込期間	令和6年6月1日（土）～令和6年6月30日（日）	
試験日	令和6年8月31日（土）	
合格発表	令和6年12月12日（木）	
受験料	16,500円	13,750円
試験会場	仙台、東京、大阪、福岡、那覇	
試験内容	択一式25問、記述式（経験論文、専門論文）	択一式25問、記述式（専門論文）

詳細は当センターホームページをご覧ください。<https://www.scopenet.or.jp/main/index.php>

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

URL: <https://www.scopenet.or.jp>

本部: 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館3階
代表 TEL: 03-3503-2081 FAX: 03-5512-7515

※ 本誌は、環境にやさしい大豆インクで印刷しています。